

第10回 グループホーム北陽運営推進会議

日 時： 令和7年 10月16日(木) 14:00～

場 所： グループホーム北陽 2F ホール

参加者：

出雲市役所 高齢者福祉課	2名
出雲市あんしん支援センター	1名
川跡コミュニティーセンター	0名
鳶巣コミュニティーセンター	0名
協力医療機関 園山医院	1名
ご家族様	0名
グループホーム北陽	6名
ご利用者様	0名

〈協議事項〉

(1) 施設運営の状況報告

・1階で1名退居され新たにご縁あって病院から入居されています。退居の経緯ですが、居室で転倒され入院、手術され手術は成功しましたが敗血症になられ戻ることが難しくなり退居されました。介護度は8月時点より若干上がっています。その他大きな変化はなく18名の方の入居となっています。地域に関しても新たに平田の方が入居されましたが他はわかりありません。

・行事について

実施	9月	施設交流(やまゆり苑)
	10月	敬老パーティー(ヨシ笛のボランティア) ※北陵インターアクトボランティア ※出雲医療看護専門学校実習 接遇週間(月1回1週間実施)、キャプション評価よりパーソン・センタード・ケアを基にした良い例悪い例

9月は施設交流ということでやまゆり苑の施設の方が演奏に来られました。経緯ですが施設から実践者研修リーダー研修に参加、リーダー研修で同じグループの方と交流があって新たな取り組みですが、やまゆり苑の音楽隊が施設に来られ演奏されました。今後も連絡を取りながら出来るといいと思っています。逆に私たちが行くのもありなのかなと話したところです。

10月は敬老パーティーということで、本来は9月17日を企画していたけれど、なかなか準備が整わず、以前運営推進会議でも話をしましたが鳶巣地区のヨシ笛のボランティアとバイオリンの演奏に来ていただく日で日程調整をして先日10月9日に終わったところです。1日を通しての敬老パーティーということで午前中はおもてなしの心をもって職員が焼きそばを作り、カラオケで歌を歌いました。みなさんで焼きそばを食べて、午後からヨシ笛のボランティアの方、今回はサプライズでオーケストラに入っておられる地域の方がバイオ院の演奏をしていただきました。毎回ヨシ笛の方が来られるようになって、音楽の素敵なところを皆さんが聞いて涙されるひとりで最後に皆さんとお茶をのんで楽しい時間が過ごせたと思います。

その他で10月から新たな取り組みとして、北陵高校のインターアクトクラブのボランティア(きっかけは去年インターアクトクラブの生徒さんに認知症養成講座を行い、それからのちにボランティアに行かせてほしいということからテストを経て10月からスタート)毎週水曜日と金曜日インターアクトクラブの生徒さんが来ています。本当に学びも熱心な生徒さんたちで認知症についても興味をもってボランティアの心でこの利用者さん

と楽しく過ごし、毎回何をしたいかを事前に決めています。絵を描きたい、話をしたい、ゲームをしたいと考え、今週は掃除の日ということで全館掃除をする予定です。職員も利用者さんもバタバタする時間で助かっています。自分たちは将来、福祉や看護の道に進みたいという思いをもって本当に明るく元気をもらっています。先月は出雲医療看護専門学校の学生さんが実習に 10 名ほど来られ今回は 1 年生ということで認知症について学びに来られました。次は県立大学の 3 年生が 11 月から 2 月にわたり学びに来られます。地域交流を深めさせていただいています。

11 月の予定として遠足を考えていて、遠足といっても北陽には車がないので電車で川跡駅からフォーゲルパークまで電車で行って遠足ができればと思っています。

12 月はクリスマス、忘年会を予定しています。

・研修について

実施	9月	不適切なケア・身体拘束・虐待研修・接遇研修
	10月	不適切なケア・身体拘束・虐待研修・接遇研修

9 月 10 月と不適切なケア、身体拘束、虐待研修、接遇研修というところを強化させていただきました。11 月に関しては 2 か月の取り組みについての振り返りや評価をしていく時期なのかなと思っています。

(2) 意見交換

❖出雲市高齢者福祉課

Q : ボランティアの方や学生さんに入ってもらって地域の活動のところで活発にされ、他の施設ではなかなか見ないような、とてもすごいなと感じました。不適切なケアのところでも 9 月 10 月で研修などされているのでそこにかんしては報告書にもあります。

Q : やまゆり苑さんとの職員交流で横とのつながりはどうなのかなと思っていましたが、研修がきっかけでされているので良いなと思いました。

A : 継続してできるように頑張ります。

❖出雲市社会福祉協議会 出雲高齢者あんしん支援センター

Q : 以前お邪魔した時になかなか行事ができないという話をされていましたが、施設交流や敬老パーティー、行事のほうも大変な中やってこられたのだなど。遠足って電車ではなかなか大変そうですが、電車で行けたら素敵ですね。

A : 何日か日にちを分けてやろうと思います。去年花の郷に行った時は午前と午後で往復して何日かに分けて利用者さん全員が行きました。軽自動車ではなかなか移動ができないということもあって、今回は電車です。駅から駅なら行けるのではないかと、安易ですが実際にやってみようと思います。

❖協力医療機関

Q : 地域交流という形で鳶巣地域の方に行ってもらって話を聞きましたが、地域の方の前で話をしたり、歌を歌ったり勉強になった、と言ってもらっています。少し質問ですが、北稜高校のボランティアと医療看護専門学校の生徒さんでは教え方に違いがありますか。

A : 幅広く話をして、地域向けや中学生、高校生、専門職というところなどで指導に参加させてもらっていますが、一番難しいのは一般向けです。介護職員、専門職向けになると少しレベルの高い研修になります。学生さんと違いがあるかわからないけれど、楽しく学ぶことを考えています。若いので大丈夫かと思いますが、集中して聞いてもらい素直に学んだことが入り分らないことは分らないと聞いてくれる。学生と同じ目線に立って楽しく学ぶことをしています。

A : これから担う人たちに教えてもらえたら

Q : 認知症の専門の話を伝えられたら、若い世代の方には、認知症があってもなくてもというところの話をさせてもらっている。認知症の方の話もしますが、周りの友達や人にかかわるときの話をしています。

(3) その他

報告並びに改善計画に関して

不適切な事案について、この施設でそのようなことが起こったことをこの場をお借りして報告とお詫びを申し上げます。

経緯について、令和7年8月4日午後6時半、夕食終了後にA様の服薬介助の際、A様の服薬拒否があった事から始まっています。夜勤職員が服薬介助の際、抵抗があった為夜勤職員がその方の鼻をつかんで無理やり服薬介助を行ったことが事故の主訴となっています。

夜勤職員は16時30分～9時30分、遅番は10時～19時までの勤務、事故の午後6時半は夜勤職員と遅番の職員がいたという状況です。夜勤職員がそのようなことを行ったのを遅番職員は見えていないといったけれど、夜勤職員が遅番職員に話をして話題になった。遅番職員はそのことに対して指摘をしていない。8月5日朝、管理者は別の救急搬送の対応をしていたため現場に15時に入り鼻に内出血があることに気づく。前日(8月4日)の朝は鼻に内出血はなかった。前日の遅番職員が出勤していたので、どうしてこんな事になったか確認をしたところ、拒薬があって夜勤職員が鼻をつまんで飲ませた。その時には内出血はなかった、こんなことになるとは思ってもみなかった。それに先に手を出したのは利用者さんだったと報告を受けました。それが事故の経緯になります。

問題は目に見える傷とかではなく、そのような行為がいけないという認識がない。本人が抵抗をされるからこちらが腹を立ててそういうことをしてもいいのか、そうではない。一緒にいた職員がいけないということが言えない、伝えることができない、見て見ぬふりだったのか、言えないのなら上司に報告することができていない。個々の認識、意識不足、認知症のことと本人への理解不足、知識不足。専門職としての意識不足、不適切なケアや虐待についての個々の価値観、感覚のズレ、曖昧さがあるのでは。

経過としては、すぐに職員会議、勉強会を行い、家族に謝罪に行きました。問題として行政への報告が発生から第一報が遅れた。何か起きた時は2～3日で行政への報告をしているのですが今回は発生から報告までに時間のロスがあった事がいけなかった。

すぐに8月7日に職員会議を行い、今までも何回もしている虐待、不適切なケアについての勉強会をして今回のことをどう思うか。まずこれをさせてもらった後に行政との話も何回かさせてもらって今回の改善計画についての取り組みをこの1か月のところで考えました。

今後の改善計画について(別紙参照)

取り組みについてどうにゆうしてやっていく途中です。

権利擁護や身体拘束に関して指導していますが、曖昧さがあって、個々の意識も違う。目に見える傷があるとかないとかではなくて、小さな芽を摘んでいかないといけない。絶対施設では起きてはいけないことが起こって、本当に協力をしていただいた皆様をがっかりさせる事になってしまい、今日ここにお揃いでない方、ご本人ご家族に対して本当に申し訳ない気持ちでいっぱい終わらせられることではないですが、この場を借りて職員も本当に反省をしています。まずは今後二度と起こらないということを一番にやっていきたい、改めて再出発をしようと思っています。このように残念な話、皆さんに安心して生活していただける場所が安心できない場所になってしまったことがいけなかったと思います。深くお詫び申し上げます。

開所から職員もかけることなくこの1年半やってまいりました。いろんな職員がいます。性格も違えばどの職員一人ひとりの個性、カラーを認め合って長所も短所も踏まえてみんなが知っていくというチームを作っています。認知症ケアも同じですが、悪い所に目を向けるのではなく職員一人一人悪い所もあるけれど長所も出していこうと日頃から話をしてみんなで声を掛け合える現場にしています。この事故の時にはできなかつ

た。その人の良い所を当事者も踏まえ悪い所もあったという事実ですが、誰一人このことを責める職員はいなかった。一人の責任ではなく自分のこととして施設全体の事として考えていこうと誰もが何とかしようと思ってくれました。

日頃から取り組みを実践する中で思うようにいかないこともあった、力量の差とかあったりする中でやっていることが活かされるという部分もあり、できない部分とかある中で一人一人職員が認知症についてもっと学びたいという姿勢や頑張っていきたいという思いを持っています。一人一人の優しさ、この北陽で頑張りたいという職員、日頃から利用者さんとかかわりどう笑ってもらおうかと本当に利用者さんと一緒に笑いたいと思っている職員ばかりです。今回失敗しましたがすぐに改善できないこともたくさんあり、少し時間のかかることもあると思いますが、また再出発をしてみんなで頑張りたいと思いますので今後とも私たちを見ていただきたいと思います。

今後ともご指導お願いいたします。

次回運営推進会議予定

令和 6 年 12 月 11 日(木)14:00～ 2Fホールにて

7